

れんけい君

発行元：地域医療連携室

国家公務員共済組合連合会

舞鶴共済病院

〒625-8585

京都府舞鶴市字浜 1035 番地

TEL 0773-62-2510 《代表》



子宮頸がん予防ワクチンについて

舞鶴共済病院 産婦人科



子宮頸がんの原因は、「HPV」というウイルス

子宮頸がんは、女性特有のがんの中で乳がん仅次于いで2番目に多く、特に20代から30代の女性においては、発症するがんの中で第1位となっています。その原因は、ほぼ100%がHPV（ヒトパピローマウイルス）というウイルスの感染で、多くの場合、性交によって感染すると考えられています。HPVは、女性の約80%が一生涯に一度は感染しているという報告があるほどありふれたウイルスです。このため、性交経験がある女性なら誰でも子宮頸がんになる可能性があります。発がん性HPVに感染しても90%以上は体内から自然消失するため、子宮頸がんに進展するのはごくわずか（約0.15%）です。どのような人が発がん性HPVに感染後、子宮頸がんを発症するのか、そのメカニズムはまだ解明されていません。ただし、子宮頸がんになるまでには、通常、数年～十数年と長い時間がかかるので、定期的な子宮頸がん検診を受けていれば、がんになる前の状態（前がん病変）を発見し、治療することが可能です。



子宮頸がん予防ワクチンは、

「発がん性HPV」の感染を予防

子宮頸がん予防ワクチンは、肩に近い腕の筋肉に注射します。半年の間に3回の接種が必要で、発がん性HPVの感染から長期間にわたってからだを守ることが可能です。

このワクチンは、子宮頸がんの原因となりやすいHPV16型とHPV18型の感染を予防し、子宮頸がんの60～70%の予防が期待できます。

対象は？

きょうさい かみこ

子宮頸がん予防ワクチンは、すでに今感染しているHPVを排除したり、子宮頸部の前がん病変やがん細胞を治す効果はなく、あくまで接種後のHPV感染を防ぐものです。そのため、HPVに感染していない初交前に接種した方が予防効果は高いことと、ワクチンに対する免疫反応が思春期では特によいことから最も接種が推奨されるのは10～14歳の女性です。また性交未経験の女性では、14歳までの女性と同じく高いワクチン効果が見込まれます。これまでの臨床試験では45歳までの女性でワクチンの有効性が証明されています。

副作用は？

一般的なワクチンと同様、接種した後には、注射した部分が痛んだり、痒みを感じる場合があります。また、注射をした部分が赤く腫れたりすることがあります。通常数日間程度で治ります。全身的な副反応としては、疲労感や頭痛、吐き気、嘔吐、下痢、腹痛などがあらわれることがあります。このワクチンに含まれるウイルスには中身（遺伝子）がないので、接種しても感染することはありません。

費用は？

全額自己負担のため、3回の接種で5万円前後（当院は53,550円）かかります。一部の地方自治体では、助成が行われており、無料で接種できる地域もあります。助成の対象は、予防効果が高い10代の女性（自治体により異なります）に限られているようです。

『かかりつけ医』をもちましょう！

紹介状があれば以下のようなメリットがあります

- 初診にかかる**特定療養費（2,100円）**が不要です。
- 病気の経過や服用中のお薬が判るので治療や診断に役立ち、検査やお薬の重複が防げます。
- 事前に受診予約ができます。

一般内科・消化器内科の初診は、他院からの紹介状が必要となります。

その他の診療科については、紹介状がなくても診察いたします。

ただし、かかりつけ医がある場合は可能なかぎり紹介状をお持ち下さい。